

# 今治市PTA連合会 会長 織田 真吾 挨拶

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行し、市P連のあらゆる事業も、かつての活動を思い出しながら、またコロナ禍3年間の変化に対応しつつ、会員の皆さま方のご理解・ご協力のもと、球技大会や今治市で行われた愛媛県PTA大会など、多くの事業を恙無くつとめさせていただくなかで、気づけば今年度も残すところあと僅かとなりました。

かつての形を思い出すとはいえ、新陳代謝の活発なPTAにとって3年間の空白は想像していたよりも長く、以前の活動を知る役員はほとんど残っていないなかでの活動再開には苦勞もありましたが、一方で現役員の新たな視点からの意見を活かし、これまで先輩方が築き上げてきた伝統の上に新たなページを加えることができたのではないかと胸を撫で下ろす次第です。

現代において、子ども達を取り巻く様々な問題は、あの手この手で押し寄せてきます。それらに対応すべく今治市PTA連合会は、会員の皆さま方の研鑽のお手伝いが少しでもできますよう、今後とも各校より選出された役員と共に、力を合わせてつとめてまいります。

また、この度の令和6年能登半島地震により、亡くなられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。今治の子ども達に関わる我々PTA会員も、悲しみに暮れ、苦しみに耐える人々に、子ども達と手を携えて心を寄せたいと存じます。

## 今治市PTA連合会活動方針

- 今治市PTA連合会は、子どもたちが安全で安心して暮らせる環境のために、各学校のPTAに向けて情報提供や支援を実施します。
- 今治市の各校のPTAより1、2名程度が市P連への活動へ参加して情報共有を行なっています。(鴨部小 秋山 陽亮)

### 現在の加盟校と生徒数

1区 合計：21校 / 8,075名  
 2区 合計：11校 / 1,264名  
 3区 合計：8校 / 709名  
 合計 40校 10,048名 (R5年5月1日現在)



(日吉中 風本 崇)

## 遊具の安全点検が行われました

公園で写真のような様子を目にしたことはありませんか？

遊具の不具合や腐食による事故防止の観点から使用が認められていないためです。

学校にも、体育科の学習で使用される鉄棒や雲い、休み時間に友達と楽しむブランコやすべり台など、様々な遊具がありますが、年々傷んだ遊具が増えてきています。

そのため、今治市に対して、今治市PTA連合会から早急に対応していただきたい旨の要望をしています。今治市では具体的な取組として、専門業者による遊具の安全点検を全小中学校で実施しました。

また、専門業者の方による日常点検の際に気を付ける点に関する講習会も開かれました。実際に遊具に触れたりゆすったりしながら、具体的に点検ポイントを教えてもらい、安全意識を高めることができました。

委員会活動等を用いて、子どもたちの目で危ない所がないかの日常点検を進めている学校もあります。

このような取組により、今治市の子どもたちは安全な教育環境で毎日を過ごすことができます。遊具で遊ぶことは、好奇心を育み、運動能力を高めることにつながるといわれています。子どもたちも、遊具で遊ぶことが大好きです。遊具が整備され、思いっきり楽しむことができる日を子どもたちは待っています。

(波方小 木村 祐也・土岐 志朗)



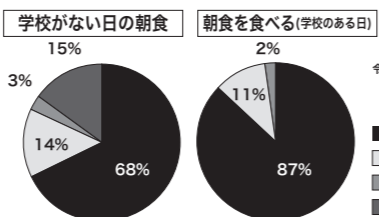
# 輝くひとみ

第35号

令和6年3月15日発行  
今治市PTA連合会  
ホームページアドレス  
<http://www.imabaricity-pta.jp>

## 子どもに大切な「朝ご飯」

子どもにとって朝ごはんは大切！とわかってはいても朝は忙しくてなかなか！という親御さんも少なくないとおもいます。朝ごはんを食べている子どもの割合は、実際のどのくらいでしょうか？



令和4年今治市役所

## 球技大会、四年ぶりに各校が集まり熱戦

令和五年六月十八日(日)今治市PTA連合会主催の球技大会を開催しました。市内三十九校からソフトボール三八三名・ソフトバレー三七一名・混合レクバレー三三七名が参加し各会場にて熱い熱戦が繰り広げられました。四年ぶりの開催のため、部員集めに苦勞した学校や練習が思うようにできなかったなどの声がありました。当日はどの学校も楽しんでるよう感じました。また、この球技大会をきっかけにPTA活動に参加してくれる人が増えた、来年度から入部してくれることになったなどプラスの声もいただきました。

(日吉中 正岡 久美恵)



## 魅力発見！地域を学ぶワクワク授業



今治市は海あり山あり田園あり、各地域に特色のある自然環境や歴史、伝統文化があります。自分たちが暮らす地域のことを知り、誇りと愛着を育むという「コミュニティ・スクール」の理念に基づき、各校様々なユニークな授業を行っています。今回はその一部をご紹介しますとともに、その意義と継続のための工夫について考えてみたいと思います。

### 事例1 島内でお遍路体験！

＜宮窪小学校＞

来島海峡大橋を渡った1つ目の島、大島には200年以上の歴史を持つ「島四国」という文化があります。四国遍路に対応した大小様々な札所が島内に八十八箇所あり、春の「島四国の日」には全国からお遍路さんが集まり、島中が賑わいます。

宮窪小学校では6年前から総合的な学習の時間を使って、小学校から歩いて行ける地域の札所を訪れています。いつも通る道のすぐ近くにあっても、実際に札所をお参りするの初めてという子もいます。春の遠足では、実際に札所でお接待を受けて、地元の方々や全国から集まる島四国ファンと交流するのも楽しみの一つ。

「せりわりさん」の愛称で親しまれる九番札所では、狭い岩の間を通った奥にお参りをします。「正直な行いをしていない人は岩場に閉じ込められる」という言い伝えがあり、児童は毎年ドキドキ！全員が無事に通れると、みんなで喜び合う微笑ましい光景が見られます。このような伝統文化も、地域の方々の奉仕があって継続できるものだとは知ることが大切です。



### 事例2 学校の裏山に古代遺跡！

＜近見小学校＞

近見小学校では、地域の歴史を学ぶ授業として、6年生が学校のすぐ裏手の伊賀山にある「相の谷古墳群」を訪れています。昭和四十年に地元の学生によって発見された1号墳は、全長約82メートルと愛媛県最大の方後円墳で、鏡や剣、埴輪などの多くの出土品や、全長7メートルもある竪穴式石室などが発見されています。

14年前から地元住民有志で結成した「しまなみ海道周辺を守り育てる会」の方々が古墳の環境整備を始め、一般の人でも遊歩道を通って墳丘まで楽に登れるようになりました。

六年生は学校の授業でも日本史を学ぶ年齢です。教科書に載っている古墳や埴輪といった歴史を、こんなに身近で学べるのは素晴らしい環境ですね。

この古墳群が来島海峡を臨む絶景の場所に位置することから、周辺の土地や海を統べる豪族の墓だったのではと言われています。1500年以上昔も、この丘から海を眺めていたのかと思うと、いつもの景色も特別に思えてくるのではないのでしょうか。



### 事例3 給食のあとにおにぎりを完食！

＜朝倉小学校＞

朝倉小学校では、令和5年度のふるさとキャリア教育の一環として「体験しよう！日本の文化「米づくり」」という農業体験プログラムを行いました。

今治平野の南端に位置する朝倉は、市内有数の農業生産地域。三方を囲む山々に降った雨水が大地を潤し、田んぼや畑に豊かな実りをもたらす、今治の食を支えています。

美しい田園風景を日常的に目にしている児童たちも、実際に田植えをしたりする機会は少なくなっています。そこで、地元農家さんのご協力の元で、3年生と5年生児童が6月の田植えから10月の刈り入れまで、約半年にわたる体験学習を行いました。

10月の稲刈りの後は、5年生30人で3升のご飯を炊いておにぎりを作って食べるという活動も行われ、給食をお腹いっぱい食べた後だったにも関わらず、児童たちは「自分たちで収穫したお米はおいしい！」とおにぎりを完食したそうです。

収穫後の稲わらを使って、高学年の児童たちがしめ縄飾りづくりも行いました。1年の実りに感謝し、五穀豊穡と健康を願う日本の伝統文化も学ぶことができ、特別な思いのこもったしめ縄飾りになりましたね。



## まとめ

各校、地域の特色を生かして郷土愛を育むユニークな授業を行なっていますね。なにより、子どもたちのために尽力して下さる地域の方々との交流は、地域に愛されて育った思い出として長く心に残ると思います。

コミュニティ・スクールって何をしたらいいの？と悩む学校も多いと思いますが、まずは地域資源について知り、子どもたちになにを残していきたいか？とみんなで考えてみるのも良いかもしれません。地域で活動されている団体の活動を知ること、良いヒントに繋がりますね。(宮窪小 久保田 茜)

## 編集後記

この度「輝くひとみ35号」が無事発行にいたりしました。今号では事業報告は極力省き、読んでいただける皆さんに興味を持っていただける誌面作りを意識して掲載いたしました。ご覧いただきご家庭での話題の1つにさせていただいたら幸いです。取材や原稿作成にあたり、ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。



### 【ももちゃんファミリー】

米田和美さん(母親)と地域の中学に通う染色体異常18トリソミーのももちゃん。住まいが遠方(関西)なため、練習はオンラインで参加しています。チャリティーコンサートには楽団のみんなと一緒に今治にて2回ともリアル参加しました。障害が重度な為出来る事は限られています。お友達の声には反応がよくニコニコして手足をバタバタ動かしています。入団し地域以外のお友達が出来たこと、そして色々な繋がりが出来た事は家族にとって掛け替えのない事です。出来るかなと不安に思うこともあると思いますが「大丈夫」と胸を張って言えます。沢山のひとと一緒に幸せを奏でられたらと思いますとお話しくれました。



### 【NOKO先生ファミリー】

楽団代表 NOKO です。特定疾患 SLE と共存中。長男優大(中学2年)はASDにて不登校。次男春仁(小学4年)は重度 ADHD・ASD・LD(書字読字障がい)にて特別支援学級在籍。幼少期から育てづらさを感じる中、生きづらさを感じているのは子ども達も同じだと気づき、同じ思いをしている親御さんや子ども達が集え、才能発掘できる場所提供はできないかと思案したところからこの楽団は始まりました。沢山の大切な出逢い、ご縁から仲間が広がり、障がい(発達障がい含)や病は『特性』『個性』であってそれらを認め合い讃え合うことの大切さを知り、偏見や差別のないワンネスな世界へつなごうと一心で活動を続けてきましたが、楽団の子どもたちと過ごす中で、障がいとか健常とかどこかで区別しているのは大人である私たちなんだと気づきました。子どもたちの間には何の垣根もありません。そしてものすごくハイスペックで才能や可能性に満ち溢れた子どもたちに感動と感謝の嵐です。共通点はみんな『命』ある人間だということ。大きな家族になった気分です。

**終わりに** 2021年の創団以来、愛媛県企画公募事業(2022)、今治市市民がともにおこす街づくり事業(2023)に採択され、過去2回のチャリティーコンサートをカトリック今治教会にて開催することができました。その際には今治市教育委員会・文化振興課・参画課・(有)サウンドスクエア等に後援していただきました。



2024年度も第3回チャリティーコンサート(11月開催予定)に向けて、福祉イベントや今治市のイベントに積極的に参加しつつ、施設慰問活動も行って行く予定です。また、子ども達や保護者同士の交流活動(おでかけや団内イベント、クリスマス会など)も盛んにしていく予定です。練習は基本毎週土曜日午前中に今治市内の公民館(近見・国分・鳥生・常盤・中央など)をお借りして行っています。

団員募集中です。入団費・団費はありません。そのため支援スポンサー・ファンクラブ会員などを合わせて募集しています。詳しくは楽団HPをご覧ください。

<https://bh.hap.pw/>

(桜井小 竹之下 乃子・楠本 洋江)



NOKO先生の親友岡本育代さん(松山在住)がSNS強化中  
『いいね』をポチッとしてくださいと喜びます♡



TikTok



Instagram



YouTube



Facebook

## Brave Heart 楽団紹介



当楽団は、カラダやココロに病や障がいを抱えている子ども達が健常者(児)との間に垣根なく、ありのままのスタイルで在籍可能な楽団(音楽を楽しむ団)です。コーラスを中心に活動し、他楽器なども取り入れています。発語のない子どもでも取り組みやすいドレミパイプやハンドベル、手話をつけて表現することも始めました。創団は2021年。代表を務める竹之下氏の息子2人の生きづらさを目の当たりにしたことをきっかけに、自身も特定疾患難病と共存しながら、障がいや病に対して偏見や差別のないワンネスな世界を願い【音楽のバリアフリー】を掲げ『みんなちがってみんないい』を合言葉に活動を始めました。

現在2歳から87歳まで幅広い年齢層で60人以上の団員が在籍しています。活動拠点は今治市ですが、オンラインで練習やコンサートを繋いで視聴することができ、県外海外にも団員が在籍しています。目的は、音楽を通じて、社会貢献できる人材を育成、自己肯定感をあげることです。音楽には人々を繋げ、心を癒し、勇気を与える力があります。その力を最大限に発揮して、世界平和への架け橋になりたいと考えています。

【現代版ブレーメンの音楽隊】として注目されつつある当楽団の活動をぜひ応援してください。



《ハンドベル演奏》



《ドレミパイプ演奏》



《吹奏楽》

## 団員インタビュー



### 【愛の3バトリオ】

木下和子さん(73歳) 佐伯きし子さん(71歳) 豊島登美子さん(87歳)：楽団の創立時から関わり支えてくれています。楽団最年長の豊島さんは、今年、人生初のハンドベル演奏にも挑戦。いくつになっても、新しいことにチャレンジする姿を見せてくれました。お三方は楽団で子どもたちと関わる中で、子どもたちの持つ力や可能性に毎回驚かされ、この活動のやりがいを感じる中、昔の日本には当たり前にあった、家族以外の人との関わり、地域で子ども(子育て)に関わるという姿がこの楽団にはあって、そこに惹かれています。あいさつが当たり前飛び交い、子ども達はとても素直。高齢者と子どもが関わることも少ない現代、楽団のこのような姿がこれからの高齢化社会にも大切な役割を果たしてくれるのではないかと期待していますとお話しくれました。



### 【なおくんファミリー】

楠本洋江さん(母親) 晶穂ちゃん(小5) 直幸くん(小1)：直幸くんはダウン症児で今治特別支援学校に通っています。音楽とダンスが大好きですが、通常の習い事は難しく、何か楽しく参加できる場所はないかと探していたところ、当楽団と繋がりが入団されました。発語のない直くんがお菓子をマイクにしっかり歌うことにみんなで感動し、音楽のバリアフリーを実感しています。洋江さんはコーラス、晶穂ちゃんは得意のイラストと書記など、どんな形でも参加できることも魅力の1つだと思っていますとお話しくれました。